

第 10 回 JBLA 審判会議議事録

開催月日：2018年1月20日(土) 開会：14時 閉会：16時 会場：尾張旭市渋川勤労会館

出席者：山本事務局長他、役員ならびに審判員 合計 23名

I. 山本事務局長挨拶(資料別途配布)

(1) 2017年度事業報告

1. 昨年度大会参加チーム数 1,248
2. 決算報告 (収入の部) 大会参加費 ¥1,246万円
(支出の部) 審判費が最も大きく、約553万円(収入の約44%を占める)

(2) 参加チーム数の減少について

減少は横ばい傾向にある。ただし、Cチームが昨年対比で10%減。対策として、キッズを対象に野球教室など積極的に展開し選手の入団に結びつける。早めに準備し動くこと。

(3) その他

- ・審判員が不足している。

(4) 2018年度事業計画

- ・年間行事(各大会日程等)は別紙のとおり(HPにすでに掲載あり)
- ・審判講習会(トレーニング)・・・1月21日(日)に船見緑地Gにて開催。

II. 2018年度規則の改正および実際の適用について

- ・故意四球(敬遠)の申告制と投球の二段モーションについて変更が予測されているが、現時点で公式発表がされておらず、解釈、解説が出た段階で検討。
基本的には、全日本軟式野球連盟(以下、全軟という)の見解に合わせることとする。

III. 議題

(1) 公式使用球の変更について

学童部(J号)は2019年度、ゲオ杯より使用。(スギモト杯は現行ボールを使用する。)

(2) **試合開始時の出場メンバー(打順表記載)が9名の場合の措置について**

昨季も9名で試合に臨むチームが見受けられたことにより、あらためて協議し、次の通り決定した。

1. 試合開始時(オーダー表記載)が9名でも可とする。
2. 全軟『競技者必携』掲載の「選手10名以上」を、JBLAでは、「9名以上」の解釈とする。
3. ただし、試合は開始されたが、途中でけがや病気等で8名となった場合は、その時点で没収試合とし、7-0で相手チームの勝ちとする。

IV. 質疑応答等

1. 試合時間およびタイブレークに関して

- ・タイブレークは原則1回は行なう。点差がある場合は、80分を超えていなければ次回に入るが、同点の場合80分以内でも試合の流れを見て当該審判が宣告する。選手交代は認めない。(守備位置の変更は可)
- ・大会規程の本文中の「プレーオフ」とあるのを「タイブレーク」と改める。

2. 一塁へのけん制時の軸足について

- 軸足が移動しても、そのけん制動作が一挙動であれば、軸足の踏み変えではなく、正規のけん制とみなしボークとはならない。
- 軸足をはずす際は、投手板の後方へはずすこと。

3. 審判員の仕事(心構え)、取り決め等について一再度、認識および徹底を。

- ・**厳しくすべきところは毅然とした対応をすること。**例えば、ベンチや応援者からの暴言、野次等への処置、ベンチからの威圧的かつ意味のない応援等に対し、注意をするもしくはやめさせる。
- ・試合中は選手をダッグアウト(ベンチ)に入れること。また、ネクストサークルには次打者が入ること。

【5.10 (k)】および【注1】を参照

- ・試合開始前のメンバー表交換は、原本を提出させること。
- ・夏季(猛暑時期)のベンチ内のテント張りは当該審判の判断。
- ・(特にCチームにおいて)未就学児童の登録は各チームの判断とする。